

2017年3月18日

**ダコタ・アクセス・パイプラインをめぐるネイティブ・アメリカンとの連帯
現在の政府のアイヌ政策とこの市民会議に対する思い**

島田あけみ

皆さん、こんにちは。島田あけみです。今日は宇梶静江さんのお供で来ましたが、お話をさせていただく機会をいただき、ありがとうございます。私は、首都圏で、東京にウタリが集える場を、政府や自治体をお願いするのではなく、自分たちの手で作るために、チャシ・アン・カラの会というグループを作って活動しています。ニュージーランドのマオリの人たちとの交流プログラムにもかかわっています。

時間が限られていますが、二つのこととお話しします。一つはダコタ・アクセス・パイプライン建設反対運動についてです。それから、現在政府が考えている政策について一人のアイヌとして考えること、そしてこの市民会議に対する期待について一言お話をさせていただきます。

ダコタ・アクセス・パイプライン(略してDAPLと言われます)は、ノースダコタ州からイリノイ州に至る約1900キロメートルの原油パイプラインです。このパイプラインはアメリカ先住民族のスタンディング・ロック・スー部族の唯一の水源を汚染し、埋葬地など文化的に重要な場所を破壊する恐れがあります。そのために、国際的に非難の声があがり、DAPL反対運動は環境正義を守るための大きな闘いに発展しています。詳細はお配りしています資料を読んでください。

DAPLの総工費は約38億ドル(約4318億円)で、そのうちの25億ドルが銀行からの融資です。日本のみならず銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行の三つの銀行が総額約1740億円もの多額の投資をしています。

マオリとの交流プログラムをいっしょにやっている仲間が、三つの銀行にDAPLへの投資中止を要請する署名活動を始め、私も署名への呼びかけの声明を出しました。1万1356筆の署名が集まり、その署名を提出するために、2月17日に三銀行に面会を申し込みました。首都圏から、宇梶静江さん、宇佐照代さん、宇佐恵美さんと私の4人のアイヌが参加しました。三銀行とも署名は受け取りましたが、写真撮影、録音は許可されず、署名を受け取っただけでした。

素っ気ない対応でしたが、日本でDAPL建設に反対している人たちがいることを銀行に知らせてだけでも意義があったと思います。私は先住民族アイヌとして、先住民族の兄弟姉妹の苦しみや闘いと連帯したいと思い、署名運動に参加しました。私たちの先祖は川を汚さないようにと厳しく教えられて育ったということを静江さんからよく聞いています。アイヌにとっても水は命です。これからもこの運動にかかわっていきたいと思っています。

この運動にかかわって、強く思ったことが一つあります。それは、DAPL がラコタの人々を脅かしているけれど、彼らには土地がある、その土地を守る条約や法律があるということです。私たちアイヌには何があるでしょうか。

いま政府はアイヌ政策を進めようとしています、その中心は「象徴空間」という変な名前のついた箱ものです。私は日本政府とアイヌ民族との和解の第一歩は、箱もの作りではなく、政府による謝罪だと思っています。謝罪のない和解はありえません。政府が過去の過ちをアイヌに対して詫びる、それを和人たちが聞く、そのことによって、私たちは、これまでアイヌを縛ってきた劣等感、無力感から救われます。アイヌがアイヌとして生きる、アイヌとして立ち上がり、声をあげる気持ちを持つことができます。

謝罪したうえで箱ものを作るとすれば、現在考えられているような大きな箱ものを一つ作るよりは、小さなものを、東京も含めていくつかの場所に作るほうがいいと思います。そして、一定の期間がすぎると、アイヌの所有になるという形にして欲しい。アイヌが自らの手で運営・管理できるものでないと、アイヌはいつまでたっても自立することができません。

この市民会議は、政府のアイヌ政策を批判的に検討して、提言することを目的にしています。政府の政策を批判する人はたくさんいますが、それに対抗して政策を提言するために立ち上がったのはこの市民会議だけです。そういう意味で私はこの市民会議にすごく期待しています。一日も早く政策の提言をまとめてもらいたいと思います。

でも、その前にやってもらいたいことがあります。私も含めてですが、多くのアイヌは、いま政府がどんな政策を推し進めようとしているのか、それが世界のスタンダードと比較してどうなのか、必ずしもしっかりと分かっていません。現在のアイヌ政策の概要と問題点をやさしくまとめた解説書を作っていただけないでしょうか。

「象徴空間」のことは話題になりますが、もう一つの、全国のアイヌを対象とした政策については話題になりません。その二つをまとめた解説書があれば助かります。その解説書を使って、各地で説明会を開いてください。札幌で会議を開くから来てくれと言っても、アイヌはなかなか動けません。そのうえで、草の根のアイヌが政府に何を求めたいのかを調査してください。草の根のアイヌに働きかけることなく、研究者が政策提言しても、アイヌの心には響きません。

この市民会議は始まったばかりですから、いろいろなことがまだ固まっていないと思います。そのなかで丸山先生や吉田先生のような研究者が骨を折って下さっています。この会議で研究者とアイヌの新しい関係が生まれることを願っています。私はハンセン病市民学会にときどき出席しますが、この市民学会は、ハンセン病についての学習、交流、検証、提言を行う市民活動です。たくさんの弁護士や大学の先生が参加していますが、ハンセン病患者との人間的交流を目指して、患者たちと手を組ん

で、フラットな関係で活動しています。この市民会議からも、共に手をたずさえて前に進む関係が生まれるといいですね。ハンセン病市民学会のことはネットに情報があります。

アイヌの世界では新参者の私がいろいろと口はばったいことを言って、申し訳ありません。でも、どんなことでもアイヌが思っていることを言える、市民会議はそんな場だと思っていますので、思い切って発言させていただきました。この市民会議から本当にアイヌが望む政策の提言が生まれることを願っています。